

材料力学って何？

秋田職能
短大 公開市民講座始まる

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）は先月30日から、同校で本年度の大学校公開市民講座を始めた。全3回で、初回は物体

に力を加えた際の変形、破壊の原理に関する学問「材料力学」がテーマ。受講者10人が機械設計技術者の仕事を学んだ。

地域住民に短大を身近に感じてもらおうと毎年開催。今回もテーマを変え、講師陣が専門分野について講義する。

先月30日は横山雅紀講師が指導を担当。「作りたい機械、アイデアを具体的に形にしていくのが機械設計技術者」とし、ベンチの設計を例に「力に対して材料の強さが弱ければ壊れてしまう」と説明した。材料は断面に対して垂直

方向の引っ張りの方に強く、平行方向の曲げの力に弱いことを指摘。「設計者は曲がる部分を、より注意して考えないといけない」と述べた。

計算式を示しながら、板の幅、長さ、断面形状など設計で変えられる手段を挙げた。ロッカーの棚板を例に「設計者の視点だと見えることがある」と、身近な生活に活用されていることを紹介した。

2、4日にも聞く。時間はいずれも午後6時30分から。無料。演題は▽2日▽Web

の仕組み（定員20人）▽4日▽木造住宅の耐震診断とは（定員12人）。受講者を募っている。申し込みは市生涯学習課（☎0186・43・7113）。

材料力学について
学んだ講座（秋田
職能短大）

